

アフター通信

2020年9月15日 NO.45
特定非営利活動法人
アフタースクール運営会
文責 理事長 矢野 穂

札幌にも秋の訪れを感じる、今日この頃です。コロナ感染対策では、ご協力いただきありがとうございます。胆振東部地震から、2年が経過しました。防災対策について、再度、考えたいものです。

さて、新聞でこんな一文を目にしました。[いい意味で「いい加減」がいい。みんないろいろだね、と言える気持ちと、相手の立場に立ってみる余裕が大事] 余裕がなくなり、挨拶もできず、誰かを責めてしまうこともある。気をつけたいものです。

石山の地域と共に育つアフタースクール

これは、2020年度の「アフタースクールのスローガン」です。今後も、地域の方々の協力をいただきながら、色々な活動に取り組みたいと思います。

地域の方々による支援等の活動について、お知らせします。

① 訓練支援(落合裕昭先生)

生活介護事業所くれ-るに月1回、利用者の訓練支援で来ていただいています。作業療法士の資格を持った落合先生によって、健康体操や身体に関する色々な助言をいただいています。学校卒業後には、数少ない大事な支援となっています。



② 音楽支援(斎藤淳子先生)

児童デイブレイズホームに月1回、音楽の支援で来ていただいています。保育音楽療法士の資格を持っている斎藤先生は、創意工夫された音楽活動で、子どもたちは、楽しいひと時を過ごしています。



③ 「石山ひろば」への寄附

石山ひろばを、今までも、本会の総会や理事会の会場としてお借りしてきました。しかし、コロナ禍で利用者が減少し、運営資金が不足していると聞きました。そこで、石山の地域に貢献するためにも、少額ではありましたが、運営資金を寄附させていただきました。今後も、色々な場面で利用させてもらいたいと思います。

コラム NO.4 「平成生まれの怪物と自称クイズ王の不思議な関係」

八雲 七

私には不思議な小学生の友達がいる。きっかけは今から3年ほど前、子供たちの両親からの相談でした。うちの息子たちの漢字や国旗などの知識が凄くてもう手に負えないというものでした。

私は漢字やクイズに多少の自信があったので小学生の子供たちのクイズ相手として名乗りを上げました。そこから定期的に漢字クイズを出して遊んでいたら時間が経つとどんどん高レベルになって一般では手に負えないレベルになっていました。

2年ほど経つと私の漢字レベルでも手に負えなくなりました。そこからは私の最も得意な分野の雑学全般のクイズを出して楽しみながらお互いのクイズ力を高めあっています。頻繁に会える友達ではないですがクイズを通して会話して関係を深めています。

一緒にクイズ番組に出て優勝することや子供たちに憧れのクイズ王と呼ばれるのが私のささやかな夢です。